

ネットの中では大反響！？

【物語編】

■大学食堂

茉奈と薫がテーブルについている。その近くを翔平が通る

翔平「お疲れ。もう俺帰るね。」

茉奈「え、何、翔平。もう帰るの？」

翔平「うん。俺これから用事あってさ・・・ダンスの練習。」

薫「何、ダンスって？」

翔平「ほら、薫にこの前見せたやつ、何かおもしろいダンスがあるって。案の定バズっててさ。友達も俺らも急いで投稿しようってなったんだよ。」

薫「ふーん、そうなんだ・・・まぁがんばってね！」

翔平「うん、じゃあ、またね。」

翔平、立ち去る

茉奈「ねえ、それってどんなダンス？」

薫「いや、正直あんま覚えてない。」

スマホを操作しつつ

薫「ちょっと待ってね、探してみる。バズってるダンス・・・っと・・・あった！ これだ多分。」

薫、スマホ画面を茉奈にも見せ動画を再生する
惑星ダンスとは異なる曲調の音楽が流れる

茉奈「たしかにちょっとおもしろいかも。」

薫「今のすごくない？」

薫と茉奈、動画を見ながら笑う

■翔平の部屋

三人、集中して大学の課題に取り組んでいる
翔平のスマホが何度か震えるが、翔平は確認しようとしていない

茉奈「通知きてるよ。」

まんざらでもない感じで

翔平「また来たかぁ。これ、ダンスのやつ。」

スマホを触って返信する

翔平「（独り言風）うん、うん、そうだよなぁ・・・」

茉奈「ダンスってこの前練習するって言ってた・・・？ 投稿したの？」

薫「・・・え、それ反響ってこと？」

翔平「そうだよ。」

薫「すごいじゃん！ そんな盛り上がってんの？」

翔平「まあね。」

薫「私もやりたい！ 教えてよ！ あれ、難しそうでさ。」

待ってましたとばかりに

翔平「しょうがないなあ。」

立ち上がり、スマホで音楽を鳴らす

茉奈、鳴り出した音楽を聴いて不審な顔。薫も眉をひそめ茉奈と目を合わせる

薫「ちょちょちょ、翔平、何この曲？」

翔平「なにして、惑星ダンスでしょ。」

薫「は？ 惑星ダンスって何？」

翔平「ほら、惑星ダンスだって・・・ニュースにもなったし、今SNSはこれで持ち切り・・・でしょ。」

薫「聞いたことないけど。」

翔平「いやいやいやいや。茉奈？」

茉奈「私も聞いたことない。」

翔平「いやいやいや。」

スマホを二人に見せて

翔平「ほら、これSNS。」

スマホをさらに操作して

翔平「ニュースサイトのトップページもほら。」

茉奈と薫、やっぱり全然知らない様子

翔平「惑星ダンスを知らない？なんで？どういうこと？」

【解説編】

■翔平の部屋

天の声「翔平君、惑星ダンスにどっぷりはまっている様子ですね。」

翔平「なんで薫も茉奈も、こんなに流行ってる惑星ダンスを知らないんですか？」

天の声「SNSの中では、あることがとても流行っていたり、自分と同じ意見の人が大多数のように見えていても、実際の世界ではそうでもなかった・・・このようなくいちがいが生まれてしまったのはなぜでしょう。

皆さんは、インターネットを通して、世界中の情報をまんべんなく受け取れると考えていませんか？」

茉奈「はい。それがインターネットの特徴ですよ。」

天の声「必ずしもそうとは言えないのです。

現在、SNSや検索エンジンなどでは、利用者の年齢や性別、居住地域などという属性や、どのようなサイトにアクセスしたかといった行動履歴などのデータをもとに、個人の興味や趣味嗜好に合わせた情報を提供するようになっていきます。これはパーソナライズと呼ばれる機能です。

例えば、SNSでは、視聴履歴を元に、利用者がより興味を持つコンテンツがお勧めとして表示されることが一般的です。」

薫「求めている情報が自動的に表示されるってことだから、便利ですよ。」

天の声「はい。興味関心のあるコンテンツに簡単にアクセスできる、という点ではメリットと言えます。

しかし、パーソナライズ機能の導入によって、サービス側が選択しなかった情報へのアクセスが困難になってしまう、という問題も指摘されています。

例えば、検索サービスのパーソナライズ機能によって、利用者が好みそうな情報だけが検索結果に表示されてしまうと、それ以外の情報は検索してもたどりつくことができなくなってしまふ、ということです。

これは、利用者の価値観を“バブル”、すなわち“泡”に見たてて、この中に閉じ込められてしまう現象なので「フィルターバブル」と呼ばれています。」

翔平「僕はフィルターバブルによって惑星ダンスの泡の中に閉じ込められていたということか・・・」

天の声「さらに、フィルターバブルに閉じ込められると、自分の意見と似たものだけが聞こえてくるように感じてしまいます。このような状態は、小さな部屋で発した声が反響するという現象に例えて「エコーチェンバー」と呼ばれます。」

天の声「エコーチェンバーの中に入ったままの状態が続くと、さらに思い込みが強くなり、その結果、極端な主張や思考を正しいと信じ込んだり、自分とは異なる意見を間違っていると思い込んだりしてしまう可能性もあります。流行中のダンス、といった程度なら大した問題ではないかもしれませんが。しかし、思想信条、文化などに関して、接する情報に偏りが生じるとなるとどうでしょう。

例えば、政治的に対立している問題があったとして、どちらか一方の考えに近い情報だけをよく目にして、反対側の考えには触れる機会すらない、といったことが発生するかもしれないのです。」

茉奈「偏った情報なのに、自分が「多数派」で「正しい」と信じてしまうかもしれないのですよ。それは怖い。」

天の声「そうですね。まずは、フィルターバブルやエコーチェンバーという現象を理解し、情報が遮断されていたり、逆に増幅されていたりする可能性があることを認識することが重要です。

そして、なるべく多様な情報源にアクセスすること。特に皆さんはせっかく大学で学んでいるのです

から、同級生や先生など色々な人と直接話したり、意見を交換したりして、見方を広げて行くのが大切ですよ。」

翔平「SNSの情報だけじゃ偏りがち、ってことですね。これからは気を付けるようにします！」